自主保全士検定試験　企業の取り組み事例

トヨタ紡織株式会社

猿投（さなげ）工場技術員室・SX
若尾 浩章さん

TPM活動を日常化にするために 製造と生技が同じベクトルで進む。

2008年から国内全工場でTPM活動をスタートしているトヨタ紡織株式会社。今後も継続的にTPM活動を実施するため、力を入れるのがTPM活動を理解した自主保全士の育成だ。

2003年から自主保全士の資格試験に取り組み始めたトヨタ紡織株式会社。これにより2022年度の資格保有者数は1600人超と、対象者3889人の約40%という高水準を誇る。しかし猿投工場技術員室・SXの若尾浩章さんは「直近5年間の取得状況では2018-2019年の合格率は全国平均以下。2020年以降は少数精鋭で受験に挑んだものの合格率は横ばいで、思った通りの結果になりませんでした」と話す。

同社TPM事務局では「この状態では、今後TPMの知識を有する人材が不足し、活動が衰退する」という危機感を抱き、TPM活動を理解した自主保全士を増やすべく4つの対策を実施。それがTPM事務局組織体制の変更、教育内容の統一と工場講師の育成、自主保全士が輝ける場の確保、資格取得対象を生技部門へ拡大の4項目だった。

「これまでさまざまな設備で改善を積み重ねても、新規設備にそのノウハウが織り込まれていないことがありました。製造と生技で力を合わせれば、TPM要素が反映された設備が導入できます」と若尾さんは説明する。未来の設備を視野に入れた取り組みだ。そこで今回は生技部門も自主保全士の資格試験に参加している。

「製造と生技が同じベクトルで進めば相乗効果を発揮し、高いレベルの安全・品質・生産性を確保できます。互いの良き点が融合した“生まれの良い設備”をつくることで、自主保全はさらに高度な活動を行っていけます」

対策は奏功し、2023年度の受験者数は同社平均の87人から153人、合格率は同社平均の52.6%から79%へと大幅に向上。過去最高の合格率になった。

「今後は弊社の技能育成センターが講師の育成を担い、レベルの均一化を図ります。資格取得者が安定的に増加していくこと、そしてTPM活動が日常的な活動になることを一丸となって目指していきます」